

事業所の概要表

(R2年 7月 31日現在)

事業所名	グループホームさわらび					
法人名	医療法人康仁会					
所在地	四国中央市三島金子2-7-22					
電話番号	0896-24-5830					
FAX番号	0896-24-5830					
HPアドレス	http:// nishioka-h@cronos.ocn.ne.jp					
開設年月日	平成11年 10月 15日					
建物構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (1.2) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	1 ユニット		利用定員数 9 人			
利用者人数	9 名 (男性 0 人 女性 9 人)					
要介護度	要支援2	2 名	要介護1	1 名	要介護2	5 名
	要介護3	2 名	要介護4	1 名	要介護5	名
職員の勤続年数	1年未満	1 人	1~3年未満	1 人	3~5年未満	3 人
	5~10年未満	1 人	10年以上	1 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 5 人			
	その他 ()					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	医療法人康仁会 西岡病院					
看取りの体制 (開設時から)	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	33,000 円					
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円					
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有					
食材料費	1日当たり	1,380 円	朝食:	円	昼食:	円
	おやつ:	500 円	夕食:	円		
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等)					
	<input type="checkbox"/> その他 ()					
その他の費用	水道光熱費	円				
		円				
		円				
		円				

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間				
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 12 回) ※過去1年間				
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間			
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等 <input type="checkbox"/> その他 ()			

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和2年8月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	6	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	1		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870900150
事業所名	グループホームさわらび
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	真鍋さとみ
自己評価作成日	R2年 7月 31日

<p>【事業所理念】※事業所記入 楽しく笑顔で</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ・運営推進会議にて結果を報告→ご家族にも結果を送付し報告すべよかった。 ・認知症カフェに参加し地域の方との交流を図る。一歩はグループホームさわらびを知っていただけのように感じた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 COVID-19感染予防のための行動自粛期間は、玄関前のテラスで過ごしたり、天気の良い日には近くを散歩したりできるよう支援した。 利用者の誕生日は、食事に出前を取ったり、行事をしりて楽しく過ごせるよう工夫している。調査訪問日は、居間から利用者や職員の笑い声がよく聞こえていた。 「さわらび新聞」は、家族に向けて毎月発行しており、233号を数える。手書きで、季節に沿ったイラストと家族への伝言事項や行事などの取り組みなどを載せている。また、毎月、個別新聞も作成して、個人にフォーカスした写真を載せ生活の様子を報告している。</p>
---------------------------------	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
I. その人らしい暮らしを支える										
(1) ケアマネジメント										
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者のご意向を聞き、ケアプランに取り入れている。	○		○	日々の中で聞いた利用者の意向は、職員個々にメモしたり、内容によっては、ケアプランチェック表の評価欄に記入したりして、カンファレンス時に話し合っている。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日々の関わりの中で、表情などから気持ちを汲み取るようにしたり、御家族から情報を得るなどしている。					
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	御家族が面会に来られた時には近況をお伝えしており、利用者の言動などからどのような「思い」があるのかを話し合っている。					
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	利用者の要望や意向をケアプランに取り入れ毎日チェックしている。					
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者について、カンファレンスなど職員間で話し合いの場を持ち意見を出し合い、考えが偏ってしまうことのないよう努めている。					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	御家族やご近所からの情報を得て、利用者の苦手なことなども把握できるよう努めた。			△	家族から得た情報は入居申込書にメモ書きしたり、カルテ(日々の介護記録)に記入したりしている。また、入居後に得た情報があれば連絡ノートに記入しているようだが、それらの内容は、記録の年月をさかのぼって探す必要があり、確認し難い。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	生活動作を見ながらできることはして頂き、カルテに記入するなどして日々見守り、状態の把握に努めた。					
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	生活の場面で起こった状況をカルテに記録し、職員間で共有できるようにしている。					
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	いつもと違う表情や言動が見られたときにはカルテに記録し、利用者の不安などが軽減できるよう話し合い対応している。					
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	職員間で気付いた変化があれば、引継ぎ確認している。					
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者の意向・要望に添った内容のプランを立てている。			○	カンファレンス時に話し合っている。	
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の生活の中で利用者の表情や様子を見ながら、利用者にとって必要な支援をさぐっていくよう努めた。					
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題ができるだけわかりやすい内容となるようなプランにしている。					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日々の生活場面から得た意向も取り入れるようにしている。					
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日々の様子、ケアの実践、気づいたところはケアプランチェック表に記入し、ケアの方法の見直しを行っている。	○		△	家族には事前に意向を聞か、「お任せします」と言われることが多いようで、カンファレンス時の職員の気持ちなどをもとにして介護計画を作成している。家族には、計画にサインをもらう時に意見を聞いている。	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	少しでもできることがあればその力を引き出せるようなケアを行っている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	利用者の心の支えとなるよう、御家族との時間を過ごす事や手紙のやり取りなどの内容を盛り込んでいく。(現在コロナ感染対策として面会制限を行っている)					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎日のケアプランチェックを行い、入居者の状態について職員間で話し合う機会をたくさん作るよう努めている。			○	利用者個々の担当職員が介護計画についても把握して、カンファレンス時に状況を報告している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月の評価を行い、職員間で今後の対応を検討している。			○	ケアプランチェック表に、実践できたかを「○・空欄」で記入している。記入漏れもみられるようだが、今後は、表の正確度を上げるような取り組みに工夫してほしい。	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	利用者の様子がわかりやすいように話した言葉そのままをカルテに記入している。				△	カルテ(日々の介護記録)に記入するようになっていくが、介護計画に沿った内容という点からは記入量は少なく、探す必要がある。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	特に変わった様子について、カルテの他、ケアプランチェック表にも記入して職員間で共有できるようにしている。				○	日々の中で、職員は、口頭で話し合っている。また、カンファレンス時に話し合い、カンファレンス記録に記入している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月評価を行っている。			◎	管理者が期間を管理しており、6ヶ月ごとに見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	職員から声掛けし確認している。			◎	ケアプランチェック表をもとに、1ヶ月ごとに評価を行っている。毎月のカンファレンス時には、介護計画の内容にかかわらず、利用者全員について現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	介護計画作成時についても作成のし直しができることを利用者に伝えており、実際に見直しもしている。			○	退院などで身体レベルに変化があった場合は、介護計画を見直しているが、この一年間では事例はない。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	課題の状況を日々確認し、チェック表に記録しカンファレンスにて話し合っている。			◎	毎月カンファレンスを行い、業務やケアについて話し合い記録を作成している。職員間で話し合ったり、相談したりすることが多く、SNSで職員のグループをつくり、意見交換などを行っている。また、利用者から希望などが出た場合は、その都度話し合って支援につなげている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	リラックスできるよう、飲み物を飲みながら意見交換している。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	平日開催を基本とするなど、工夫している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を作っており、参加できなかった職員は会議録に目を通してサインするという形式にしている。			△	欠席者はカンファレンス記録を確認して捺印するしくみをつくっているが印が、揃っていないようなところがある。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを活用している。			△	利用者に関する情報は申し送りノート、家族からの伝言や業務に関する情報は連絡ノート、家族へ伝えることはホワイトボードに記入するなどして共有している。職員は、各ノートを確認してサインするしくみをつくっているが、サインが全員分揃っていないところがある。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートのほか、ホワイトボードも活用している。	○			
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	行きたいところ、したいことを聞いたら、基本業務との折り合いをつけつつ時間を作る努力をしている。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	その都度、意思確認するよう努めている。			○	日曜日の朝食の主食はパンかご飯か選べるようにしている。更衣時、着る服を決めたり、買い物時、おやつや日用品を選んで買ったりすることを支援している。
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	難しい要望についても、ケアプランに取り入れ、少しでも要望に近づけるように努めている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	その日の体調や前日の様子も見ながら、臨機応変に支援している。				
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	職員が笑顔で対応し、明るい雰囲気になるよう努めている。			○	誕生日は、食事に出席を取ったり、行事をしたりして楽しく過ごせるよう工夫している。調査訪問日は、居間から利用者や職員の笑い声がよく聞こえていた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情やしぐさから思いを読み取り、その時の反応をみて後の支援に活かせるよう努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	一人ひとりの性格や状況にも考慮し、声掛けの工夫をしている。	◎	○	○	虐待防止についての外部研修(1月)時に、尊厳や人権についても学んだ。職員は、各ノートを確認してサインするしくみをつくっているが、サインが全員分揃っていないところがある。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声をかけないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	利用者と呼ぶ時には本人の希望を聞き、親しみを込めた呼び方をするように心がけている。				評価困難
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	利用者の性格を考慮し、対応している。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室時には必ずノックをしている。			○	管理者は、居室で過ごす利用者に「見せてもらっていいですか」と声をかけてから入室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時に説明があり、理解している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者に手伝ってもらったときには感謝の気持ちを伝えるよう心がけ、一方的な関係にはなっていない。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	支えあっている場面を見守り、支えてくれた側には職員からお礼を伝え、円満な関係作りを努めている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	一人ひとりのできることに応じて、利用者同士がフォローし合い良好な関係が構築できている。			○	テラスで過ごす際の席や買い物と一緒に行く人など、利用者同士の関係性を踏まえて決めている。他利用者の車いすを押してあげるような場面の写真がみられた。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルがあった時は職員に話してくれており、その都度対応している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	利用者が普通話をしてくれるときにはゆっくり傾聴し、重要な情報は共有している。				/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前に情報を得るようにしている。					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	希望があれば、自宅まで同行するなどしている。 (現在はコロナの為、不要不急の外出は控えてもらっている。)					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	職員が笑顔でお迎えし、利用者の居室などで過ごせるよう案内している。 (現在はコロナ感染対策の為面会制限をしている)					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出で過ごすことも含む)	○	天気の状態なども見つつ、玄関先にあるテラスを利用したティータイムなど、少しでも外に出られるよう支援している。	○	○	○	COVID-19感染予防のための行動自粛期間は、玄関前のテラスで過ごしたり、天気の良い日には近くを散歩したりできるよう支援した。 麦わら帽子をかぶって庭を散策する利用者の様子を撮った写真がみられた。	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力が得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在出来ていない。					
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	散歩や外気浴の支援をしている。			○		車いすの利用者も玄関先でひなたぼっこなどして過ごせるよう支援している。
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	公園などへ外出ができる季節行事を作っている。 (現在はコロナ感染対策として行っていない)					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症による周辺症状に対して、その背景は何かを探りケアできるよう努めている。					
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	出来る限りトイレでの排泄をしてももらえるよう支援している。車イスの方についても、手引き歩行するなどして支援している。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	ボタンの一つでも自分でとめられるように見守りしている。	◎		◎		事業所で食事作りを行う時には利用者も調理、盛り付けなどができるよう場面をつくっており、その様子は個別新聞に掲載している。
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	食事の準備や下膳、台拭きのみ等役割を持ち生活されている。				「楽しみ行事」として月2回計画し、お弁当作り、カレー、餃子、天ぷら作り、また、笹飾りをつくるような機会を持っている。 時には、職員が犬を連れてきて、利用者が隣に乗せてかわいがっているような写真がみられた。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	利用者がそのときにできることはお願している。	○	◎	◎		
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	母体の病院でのイベントに参加し、地域の方との交流が持てるよう努めている。 (現在コロナ感染対策として行っていない)					
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	散髪・ヘアカラーの希望があれば、利用者の要望を聞き対応している。					
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるよう支援している。	◎	各自の好みのものを選んでもらっている。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	御家族からも協力を得られている。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出行事の時には、職員も一緒になって遊び楽しんでいる。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	声掛けに工夫しながら、その場を離れるなど支援している。	○	◎	○		清潔な服装で過ごす利用者の様子の写真がみられた。
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	◎	希望に添った美容室の利用や定期的に出張理容も利用している。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	状態に応じた介助を行うなどし、本人らしく過ごせるよう工夫を行っている。			○		買い物の折に、化粧品を買うような利用者もおり、個々に合わせてサポートしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	栄養を摂る以外の目的も理解している。				昼・夕食は、法人の厨房から食事が届き、事業所で利用者と一緒に盛り付けや配膳を行っている。月に2~3回は、事業所で食事を手作りにして、利用者と一緒に調理を行っている。 寿司の具(ゆず・アナゴ・たけのこ)などに季節感がある。地元で馴染みのあるエビちくわなども食材として使用されている。 事業所で利用者用に用意したものを使用している。さらに、個々の好みの食器なども採り入れてはどうか。 職員は、利用者と少し離れた場所で持参した弁当を食べようとしている。介助が必要な利用者については、みなと時間をずらして食事の時間を持っているようだ。 食事を手作りする際には、ホットプレートを使って餃子を焼くなどしている。テラスでお弁当を食べたり、時には出前や握りずしの持ち帰りなどを利用している。利用者からのリクエストでカップラーメンを食べたこともある。 法人の栄養士が立てた献立で食事が届く。手作りする日は職員で話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	定期的に、ぎょうざやたこ焼き、ホットケーキなど利用者の食べたい物を一緒に作っている。				
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	混ぜる、盛り付けるなどそれぞれの役割を持ちながら調理をする事で自信に繋がっているようで笑顔がみられる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者の病状に応じた食事の提供を行っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	利用者から食べたいと要望があれば、対応するよう努めている。				
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	その日の体調や本人からの希望があればおかゆを提供したり、食べやすいようにぎりを提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	状態に応じて食器を変えるなどしている。				
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者の近くで食べ、むせ込みや食べこぼし、お箸を落とすしてしまうようなことがあればすぐ対応している。				
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	目の前で調理できる、お好み焼きや餃子などホットプレートを使った料理を楽しんでもらっている。		○		
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養士の考えたメニューを毎日提供し、糖尿病食や腎食にも対応している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	毎日の食事量チェックを行い、食事が減っている時は本人の食べたい物を提供するなどの工夫をしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	昼食、夕食は母体病院の栄養士によるバランスの取れた食事を提供している。				
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	新鮮な食材を前日に準備している。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	食後や就寝前には口腔ケアの声掛けをしている。また必要な方については介助している。				
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際、状況確認している。			△	自立している利用者は本人に任せている。ケアが必要な利用者については、職員が目視で確認している。
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	勉強会に参加したり、診察時に学び取り入れている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	できない方へは介助に行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	出来る限り自力で行ってもらい、状況に応じて見守り、介助をしている。				
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	状況に応じて御家族に連絡、診察援助している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	自分ならどうしてほしいかを考え、利用者に寄り添う心を忘れないよう心がけている。				日々の中で状況や気付きを話し合い、決定事項は連絡ノートに記入している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	勉強会に参加したり、定期的に見護師からわかりやすい説明を受けている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄の記録をつけ全職員が把握するようにしている。 ○ また便秘が続いているときは水分を多くとってもらったり便秘薬を内服してもらっている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	本人の排泄に合った尿取りパットの使用、体調不良時や起き上がれない時に使い分けするなど工夫している。	○			
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	普段から食事量や水分量のチェックを行い、トイレで排泄ができるよう支援している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	自尊心を傷つけることのないよう、声掛けを工夫している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	御家族が選り持参してくれたり、こちらで準備する場合は御家族に相談したり、本人に選んでもらうなどしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	利用者に合わせたオムツを状況にあわせて使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	廊下での歩行訓練、乳酸菌飲料などの水分を多めに摂って貰う等の取り組みをしている。また利用者の希望される果物や便秘に良いと言われる食品を購入しお渡ししている。				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	毎日入浴できるような体制を整えているが、時間や回数に関しては利用者の希望通りの入浴は行えていない。	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。			○	後から入浴される利用者に気を使わないように声掛けに工夫をしている。				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			◎	必要などころのみ介助している。				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。			◎	その日の状態に応じて対応している。				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			◎	バイタルチェックを必ず行い、観察している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	定期的に巡回を行っている。				入居前から眠剤を使用する1名の利用者は、入居後も使用している。 ○ 日中、テラスや庭で過ごすような時間をつくるなどして、安眠につなげている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その時の状態や発言をしっかりと申し送り、原因を探るよう努めた。また日中は退屈せず起きていられるような声掛けをしたり、よく眠れた日と同じような行動ができるよう支援している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来る限り薬剤に頼ることなく、日中の過ごし方を工夫するなどしている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	ホーム内で自由に過ごせる様に声掛けしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	希望があればいつでも対応できる様にしている。				/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	必要に応じてヒントを出す、などの支援をしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	希望があれば対応している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は本人に渡すようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	御家族からの協力を得られており、御家族からも手紙や電話がある。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	支払いが出来る利用者は見守り、本人にしてもらっている。				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	母体の病院内にある売店に気軽に買い物に行けるよう支援している。 (現在はコロナ感染対策の為、買いたい物を聞き職員が代わりに購入している)						
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	少人数で気兼ねなく買い物できる様に支援している。 (現在はコロナ感染対策の為、買いたい物を聞き職員が代わりに購入している)						
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	お金の所持は利用者、ご家族のご意向にお任せしており管理ができる方についてはしてもらっている。						
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	本人・御家族と話し合い、ご意向にお任せしている。						
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月、出納帳のコピーを送付している。						
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	遠方の御家族に対して支払いの代行を行う等柔軟に対応している。	◎		○	遠方に住むご家族のかわりに、支払いの代行をしたり、入院手続きなどの手伝いをしている。		
(3) 生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先に植物を置き、家庭的な雰囲気になっている。	◎	◎	○	事業所は、法人施設の裏手の方に位置する。玄関周りの掃除や庭の手入れが行き届いていた。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住みやすい心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない程風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	○	食堂のイスには本人の座布団を使用したり、ひざ掛けを置いたり、落ち着いて過ごせるよう心がけている。			◎	◎	評価困難 ユニットの立ち入りができないためユニット内は確認することができなかった。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除をし清潔が保てるように努めている。				◎	評価困難 ユニットの立ち入りができないためユニット内は確認することができなかった。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を飾るなどしている。					◎	評価困難 ユニットの立ち入りができないためユニット内は確認することができなかった。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	玄関先のソファや2階廊下ソファのようなくつろげる場所を設けている。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	のれんをするなど工夫している。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	馴染みの物や大切な人の写真を置くなど工夫している。			○	○	ベッドの脇にクリアボックスを設置して、自分で衣類の整理ができるようにしているところのみみられた。必要なものを用意しているが、個々の好みのものを活かして空間作りを工夫してはどうか。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレや風呂場には必要となる手すりが付いている。				○	○	玄関前のテラスには手すりを設置している。 トイレに暖簾をかけ、表示は色を付けて柱の側面に貼り、少し離れたところからも見えるようにしている。 自室がわかりにくい人には、色画用紙に大きく名前を書いて入口に貼っていた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	安心して生活できるような環境作りを行っている。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	新聞や雑誌、歌詞本などいつでも取れるようにしている。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	玄関、居室共に施錠することなく自由に入出りできるようになっている。	◎		○	◎	◎	玄関は施錠せず、「家に帰ろうわい」「病院に行ってくる」と言って一人で出かけていく利用者には、職員は後から付いていくなどして支援している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	御家族との理解を図り、日中は玄関を施錠せず開放している。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関が開くと音が鳴り、施設内どこにいても気づけるようになっており日中は鍵を付けていない。また、もし利用者が外に出られた場合は見守っている。						
(4) 健康を維持するための支援											
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	すぐに確認ができるようファイルにまとめている。					実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタルチェックを行い、変化があればカルテ・チェック表に記録をしている。バイタル表は毎月御家族に送付している。						
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	母体の病院看護師と医療連携を行っている。利用者の変化や気になることがあれば、報告・相談している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	これまでの受診記録を残し、全職員が把握できるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人・御家族の希望を大切に、かかりつけ医を受診している。受診結果、経過は御家族に報告している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	御家族から希望がある場合や、必要に応じて診察に同席してもらっている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	介護サマリーを活用し情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院した場合には、面会に行き病院職員に状態を聞くなどして現状を把握するよう努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	月に2回、連絡会や定例会に参加している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	週3回、看護師による健康管理を行い必要に応じて病院や家族への報告を行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	休診日、夜間でも母体病院や利用している薬局、訪問看護師に相談できる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日の健康チェックを行い、普段の様子を知り変化があれば、看護師に報告し適切な支援を行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬についての説明書を見て把握している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	内服介助の際、名前・日にち・時間などを声に出し確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日常生活状況を観察し、食事チェックや排便チェックを行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態に応じて医師に相談し、調整をしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化した場合には御家族・医師・看護師と相談し今後の対応を決めている。				看取り支援は実施していないが、食事が欲しくなくなるような状態、医療が必要になるような状態になるまでは支援している。 入居時に方針を説明してその後は、重度化した場合に話し合い、家族と頻りに連絡を取りながら支援している。 さらに、利用者や家族の支援の希望を聞き、また、職員の思いなども踏まえて、実践できるような体制づくりに取り組んでほしい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者が話し合い、方針を共有している。	◎	母体の病院や関連施設との連絡会に参加し方針を共有している。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。		現在、看取りは行っていない。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に行い、理解を得るようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	まずご家族のご意向を確認し、医師に状態を報告し、指示を貰い対応している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	御家族からの相談があれば寄り添い安心して頂けるよう支援している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	院内勉強会や外部の研修に積極的に参加している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症マニュアルに沿って対応している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	地域の病院が開催している研修に参加している。インターネットからも最新情報を入手するよう努めている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	母体病院からの回覧板などで把握に努めている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	外出先から帰ったり食事前には、手洗いうがいをするように徹底している。また、手指用の消毒スプレーも設置している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には近況を報告し、できる限り話し合うよう努めている。				法人主催の行事(盆踊り・クリスマス)に案内している。事業所での活動に案内するような取り組みは行っていない。 「さわらび新聞」は、家族に向けて毎月発行しており、23号を数える。手書きで、季節に沿ったイラストと家族への伝言事項や行事などの取り組みなどを載せている。また、毎月、個別新聞も作成して、個人にフォーカスした写真を載せ生活の様子を報告している。家族から頂き物があればお礼文を載せている。 運営推進会議時に行事や活動について報告しているが、家族に議事録送付は行っていない。COVID-19感染予防対策について面会自粛についての案内をした。設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等についての報告は行っていない。管理者は今後、新聞などで職員の紹介などをしていきたいと考えていた。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(茶や甘い雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	笑顔で対応し、気軽に来所してもらえよう努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	イベントなどの案内をしている。(現在はコロナ感染対策の為、自粛している)	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	月1回家族新聞を作成し本人の様子を伝えている。	◎	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時に日々の様子を伝え、御家族から意見や要望を確認するようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	御家族との関係を理解し対応に工夫をしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議や御家族への手紙などでお知らせをしている。	○		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	運営推進会議のご案内のみで、他は実施できていない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	その時の状態を報告し対応した結果もお伝えしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	御家族の相談があれば聴き、御家族の気持ちに寄り添えるよう努めている。			△	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	不備のないよう努めている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	納得の行く退居先に移れるよう説明を行っている。退居先にはしっかりと情報提供を行うよう努めている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	説明し、同意を頂いて署名・捺印を頂いている。運営推進会議でも説明を行っている。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	最近では行っていない。		△		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	月に1回ふれあい相談員が来所し、利用者との交流を図っている。また一般の方も来られる系列施設のカフェに行っている(現在コロナの為中止)	○	×		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	何かあれば助け合いたい、と話してくださる。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	時折、近所の方が遊びに来てくださる。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄り寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近隣の方と会えば必ず挨拶をするよう心がけている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	月に1回ふれあい相談員の方が来所され利用者の話を聴いてくれたり、地域住民が訪ねてきてくれる。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	地域支援の把握に努めたい。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができよう、日頃から理解を深める働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	玄関先のテラスを活用し、隣接しているジムの利用者や地域住民との関わりを大切にしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	△	参加していただいている。	○		○	会議時に毎回勉強会を行っている。利用者は毎回参加している。家族全員に案内しており、1名ほどの参加がある。地域からは2~3名の参加がある。(COVID-19感染予防のための行動自粛期間は中止している)	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者の状況、行事報告を行っている。			○	運営状況(利用状況・活動状況・近況報告)・利用状況(利用者数・平均年齢・平均介護度)について報告している。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	ご意見は必ず聞くようにし、頂いたご意見に対しての結果を報告できるよう努めている。			×	外部評価実施後は報告を行っているが、昨年の自己評価実施後の報告は行っていない。	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	運営推進会議の日程は地域住民の方のご意見を取り入れるようにしている。			◎	事業所からの報告に対して質問はあり、その場で答えるようなことはあるが、意見やアドバイスは出ていないため、取り組みに活かし、結果を報告するまでに至っていない。会議時に行う勉強会の内容については、感想がある。	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	手に取って見ていただけるように玄関に置いている。					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	短く覚えやすい理念になっており、実践しやすい。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	玄関に理念を掲げているが、説明を行っていないので周知されていないかもしれない。	△	×			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修の案内を管理者に伝えて参加するよう促している。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	定期的に勉強会を行ったり、よりよいケアを提供できるよう日々のケアの中で実践している。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の自己評価があり、個別に話ができる場を設けている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	3ヶ月に1回の市内GH交流会への参加や、外部の研修にも参加している。(R2.7 GH交流会解散)					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	いつでも相談を受け付ける体制を整備しており、ストレスチェックのアンケートも実施している。	○	◎	○		法人ではストレスチェックを実施しており、希望で相談ができる体制がある。職員の入れ替わりが少なく、関係性が良好なため何でも話し合える状況にあるようだ。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修会への参加、勉強会にて理解するよう努めている。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々の申し送りや月1回のカンファレンスで対応の仕方を話し合っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待防止の研修に参加し、職員全体で虐待への知識を深めるよう努めている。また日々の申し送りの中で、グレーンではないかと思われる支援があった際には話し合っている。			○		行為を発見した場合「本人と話し、必要に応じてカンファレンスで話し合う」と職員は認識している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	利用者の様子を日常的に観察している。また職員の話を定期的に聞き、負担が軽減するよう努めている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修会に参加し、学んだことについてホーム内で勉強会を行っている。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	日々の会話の中で意見を出し合っている。					
		c	家族等から拘束や錠剤の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を話し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	要望があった際に、身体拘束ができないことを説明し理解をもらえた。また、日ごろから御家族へ利用者の様子をお伝えし、どのように対応しているかをお伝えするよう心掛けている。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修会に参加し理解するよう努めている。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	御家族、利用者から相談があった場合、パンフレット等を活用し情報提供を行いたい。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	必要な場合は、市役所などへ問い合わせ対応したい。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	日勤帯・夜勤帯のマニュアルを作成し、カンファレンスなどで定期的に見直している。				/
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修に参加したり、消防士に依頼しさわりび内での訓練をしてもらっている。(現在コロナのため外部の係わる訓練は自粛中) 全職員が実践力を身につけられるよう努めたい。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故に繋がりそうな事例についてはヒヤリハットにまとめ話し合っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	日々の申し送りの時にも話し合うようにしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し、定期的に見直している。				/
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	どの職員も対応できるような体制を整えている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば、母体の病院にも報告し前向きな話し合いができるよう取り組んでいる。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に聞く機会等)	◎	毎月ふれあい相談員さんが来所され、利用者の意見や話を聞いてくれており、交流を図る機会になっている。(現在コロナ感染対策のため中止している)			○	運営推進会議に参加する利用者は機会がある。さらに、利用者に意見や要望などを聞くような場面も作ってほしい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に聞く機会等)	○	面会に来られたご家族とお話したり、運営推進会議の案内をし、意見を頂いている。	○		○	運営推進会議に参加する家族は機会がある。運営に関して意見をもらうような機会を増やしてはどうか。利用する立場からの意見をもとにして、さらなるサービス向上につなげてほしい。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	重要事項説明書にも記載し情報提供を行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	毎月運営会議や相談員定例会があったり、文章でのやり取りもしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的にかンファレンスを行っている。日々の介護の中で意見を出し合えるようにしている。			◎	管理者は、日々の中やSNS、カンファレンス時に職員の意見や提案を聞いて話し合っている。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	利用者が快適で安心して生活できる場となるよう取り組んでいる。				外部評価実施後の運営推進会議時に報告を行っている。家族へは改善点をまとめて送付した。モニターをってもらう取り組みは行っていない。昨年の自己評価実施後の報告は行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	カンファレンスや申し送り時に改善すべき点や疑問点など、意見を出し合うと共に意識統一に努めている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	達成に向けて問題点が解決できるよう取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果などを報告し取り組んでいきたい。	△	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	今後取り組みの成果を確認していきたい。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災・地震時のマニュアルを作成し定期的に見直しをしている。				法人施設と合同で避難訓練を行ったが、地域住民との合同訓練や、話し合うような機会は持っていない。さらなる災害対策に向けて、家族・地域アンケート結果なども参考にして取り組みを検討してほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の防火訓練・年に1回の地域防災訓練への参加をしている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防火訓練後、消防職員による立ち入り調査の後消火設備点検を行っている。非常用食料、備品、物品の点検についても定期的に行いたい。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	2ヵ月に1度の運営推進会議の際、防火訓練を組み込んでいる。(現在はコロナ感染対策もあり、地域住民の方に参加していただくのは難しい)	△	×	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	防火訓練の際、母体の病院スタッフも応援に駆けつけてくれる。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	今後取り組んでいきたい。				近所の高齢者からの依頼で生活上の手伝いをしたことはあるが、相談支援を行うような取り組みは行ってはいない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の高齢者が困り事があった時相談しにきてくれている。 (現在はコロナの為関りが薄くなっている)		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	地域の集まりの場として活用していきたい。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	看護実習の受け入れを行っていて、要請があれば受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	市町や他の医療機関が開催している研修に積極的に参加している。			△	